

平成 30 年 6 月 26 日

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
e-ASIA 共同研究プログラム
事後評価コメント

研究開発課題名 日本・ベトナム・フィリピンでの疫学調査によるインフルエンザ・結核による呼吸器感染症の 3 カ国比較
研究開発機関名 帝京大学
研究開発代表者名 鈴木和男

フィリピンとベトナムにおけるインフルエンザ、結核を対象とした呼吸器疾患の病因解析と疫学調査が行われ、計画された試験項目は実施されている。特に結核菌については、系統が日、比、越国で広まっている結核菌の系統の違いがあることを明確にした。また、インフルエンザウイルスの非構造タンパク質の一つである NS1 の部分構造や遺伝子変異が病原性に関与していることを示したことは評価できる。さらに、単なる疫学調査にとどまらず、小児の重症肺炎に対するジョサマイシンによる治療を試みるなど感染症対策に対する積極的な姿勢は高く評価できる。3 カ国間の研究交流も頻繁に行われ、相手国の若手研究者の育成に寄与している。一方、フィリピンの研究者による学術的貢献が大きくなかったことは、研究実施体制の改善が必要である。

今後、本研究を継続して呼吸器感染症の 3 カ国比較を実施し、また、フィリピンで分離した結核菌の遺伝子型を詳細に解析やジョサマイシンの臨床試験の検証が行われることを期待する。

以上